

2013年2月7日 全5頁

## Indicators Update

# 12月機械受注

足下持ち直しの動き、先行きも増加見込み

経済調査部  
エコノミスト 橋本政彦

### [要約]

- 2012年12月の機械受注では、国内設備投資の先行指標である民需（除く船舶・電力）は、前月比+2.8%と3ヶ月連続の増加となり、市場コンセンサス（同▲0.8%）を上回った。基調を3ヶ月移動平均で見ても、2ヶ月連続の増加となっており、機械受注の持ち直しの動きが確認される内容であった。四半期別ベースでは、10-12月期は前期比+2.0%と、内閣府見通し（同+5.0%）を下回ったものの、3四半期ぶりの前期比増加となった。
- 今回公表された2013年1-3月見通しでは、民需（除く船舶・電力）は前期比+0.8%と2四半期連続の増加を見込んでいる。内訳を見ると、製造業が4四半期連続の減少（同▲0.1%）を見込んでいるものの、非製造業（除く船舶・電力）の増加（同+0.4%）が全体を牽引する見通しとなっている。
- 設備投資の本格回復には、低迷が続いている製造業の設備投資が増加に向かうかどうかがかギとなるが、このところの円安を受けて、製造業の収益環境は改善し、国内投資に対するインセンティブが高まっているとみられる。また、経済対策において設備投資支援策が盛り込まれたという追い風もあり、設備投資は徐々に回復傾向を強めると見込んでいる。

機械受注の概況（季節調整済み前月比、%）

	2012年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
民需（船電を除く）	0.7	2.8	▲2.8	5.7	▲14.8	5.6	4.6	▲3.3	▲4.3	2.6	3.9	2.8
コンセンサス												▲0.8
DIR予想												▲1.5
製造業	▲1.3	9.5	▲8.4	3.4	▲8.0	▲2.9	12.0	▲15.1	2.8	▲3.6	3.9	3.0
非製造業（船電を除く）	1.4	2.1	▲3.9	5.7	▲6.4	2.6	▲2.1	3.6	1.3	2.8	6.2	▲8.0
外需	14.6	▲13.4	▲14.4	0.3	0.3	▲9.8	3.0	▲14.7	0.0	9.4	17.0	▲12.6

（注）コンセンサスはBloomberg。

（出所）内閣府、Bloombergより大和総研作成

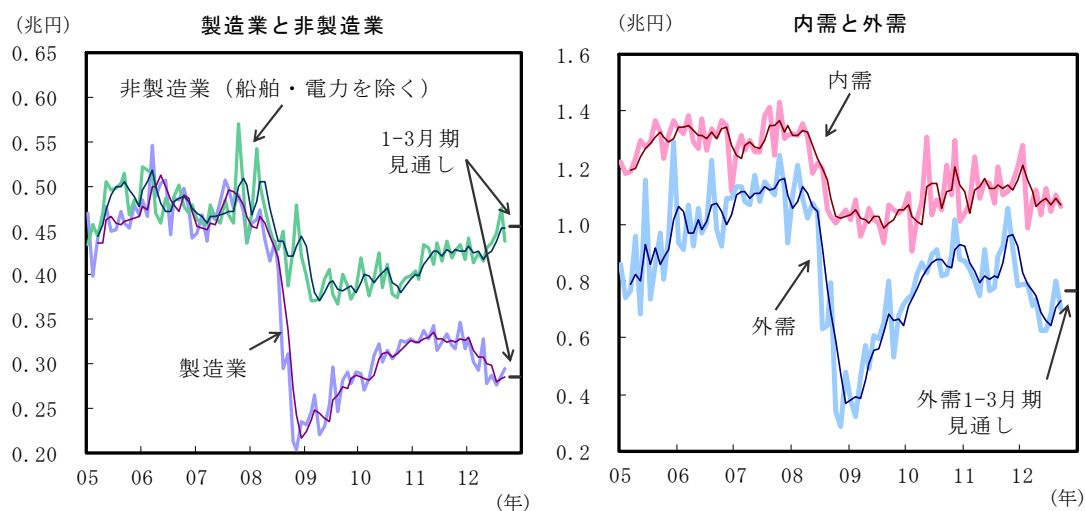
## 機械受注は持ち直しの動き

2012年12月の機械受注では、国内設備投資の先行指標である民需（除く船舶・電力）は、前月比+2.8%と3ヶ月連続の増加となり、市場コンセンサス（同▲0.8%）を上回った。基調を3ヶ月移動平均で見ても、2ヶ月連続の増加となっており、機械受注の持ち直しの動きが確認される内容であった。四半期別ベースでは、10-12月期は前期比+2.0%と、内閣府見通し（同+5.0%）を下回ったものの、3四半期ぶりの前期比増加となった。

## 製造業は2ヶ月連続の増加、非製造業は5ヶ月ぶりの減少

業種別の内訳を見ると、製造業は前月比+3.0%と2ヶ月連続の増加となった。前月大幅に増加していたパルプ・紙・紙加工品が反動で大幅減（前月比▲56.4%）となったものの、化学工業（同+9.5%）、情報通信機械（同+14.1%）、金属製品（同+30.5%）、一般機械（同+2.9）向けの増加が全体を押し上げた。非製造業（船舶・電力を除く）は前月比▲8.0%と5ヶ月ぶりの減少となった。農林漁業（前月比▲35.7%）、金融業・保険業（同▲28.5%）の減少が主な押し下げ要因となったが、これらの業種は前月に大きく増加しており、12月の減少は反動減の可能性が高い。建設業（同+11.5%）では3ヶ月連続の増加、不動産業（同+11.9%）では4ヶ月連続の増加となるなど、非製造業全体で見れば、堅調な推移が続いている。

### 需要別機械受注（季節調整値）

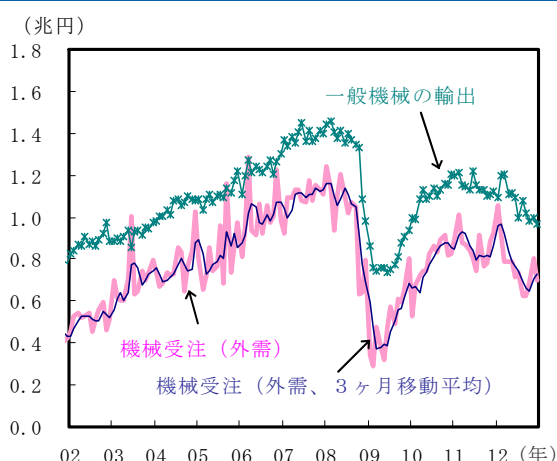


(注) 太線は実績値、細線は3ヶ月移動平均値。  
(出所) 内閣府統計より大和総研作成

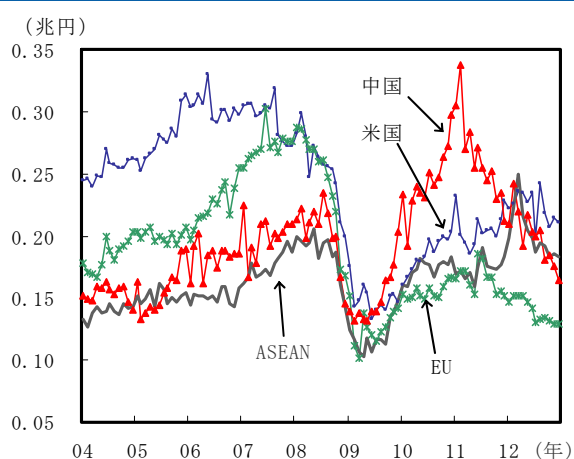
## 外需も反動減となるも、均せば持ち直し

外需は前月比▲12.6%と減少した。単月で見れば大きく減少した格好だが、3ヶ月移動平均では2ヶ月連続の前月比増加となっていることから、外需に関しても均してみれば持ち直しつつあると言えよう。貿易統計に見る一般機械の輸出は依然減少傾向が続いているが、主要輸出先である中国やASEANでは景気改善の動きが見られており、機械受注の外需に沿う形で、一般機械輸出も増加に向かうとみられる。

一般機械の輸出と機械受注の外需（季節調整値）



一般機械の輸出先（主要国・地域、季節調整値）



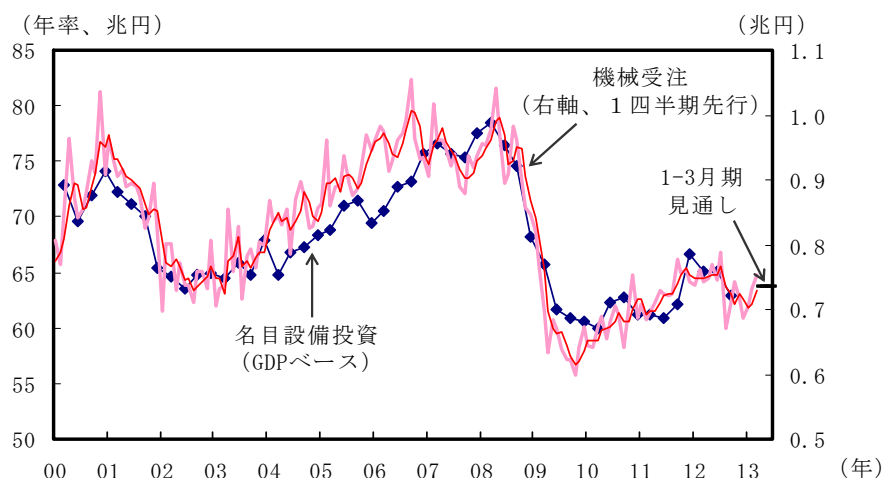
(注) 輸出金額の季節調整は大和総研。  
 (出所) 内閣府、財務省統計より大和総研作成

### 2013年1-3月期の機械受注は2四半期連続の増加見通し

今回公表された2013年1-3月見通しでは、民需（除く船舶・電力）は前期比+0.8%と2四半期連続の増加を見込んでいる。内訳を見ると、製造業が4四半期連続の減少（同▲0.1%）を見込んでいるものの、非製造業（除く船舶・電力）の増加（同+0.4%）が全体を牽引する見通しとなっている。2月14日公表予定のGDP一次速報では、10-12月期の設備投資は減少する見込みだが、機械受注はGDPベースの設備投資に対して概ね3ヶ月程度の先行性があるため、GDPベースの設備投資は2013年1-3月期、4-6月期は増加する公算が大きい。

設備投資の本格回復には、低迷が続いている製造業の設備投資が増加に向かうかがどうかカギとなるが、このところの円安を受けて、製造業の収益環境は改善し、国内投資に対するインセンティブが高まっているとみられる。また、経済対策において設備投資支援策が盛り込まれたという追い風もあり、設備投資は徐々に回復傾向を強めると見込んでいる。

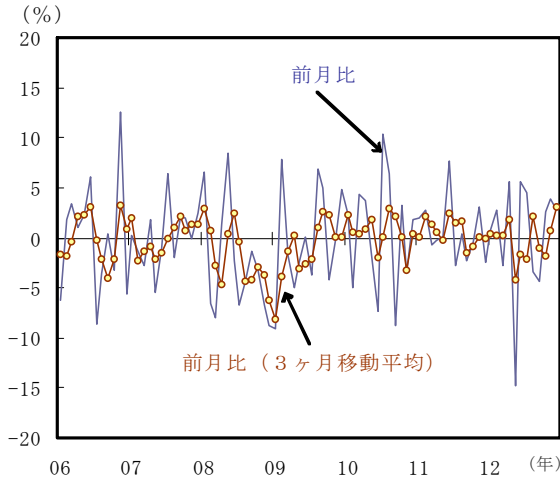
機械受注の民需と設備投資（季節調整値）



(注1) 機械受注は民需（船舶・電力を除く）。  
 (注2) 民需の大線は実績値、細線は3ヶ月移動平均値。  
 (出所) 内閣府統計より大和総研作成

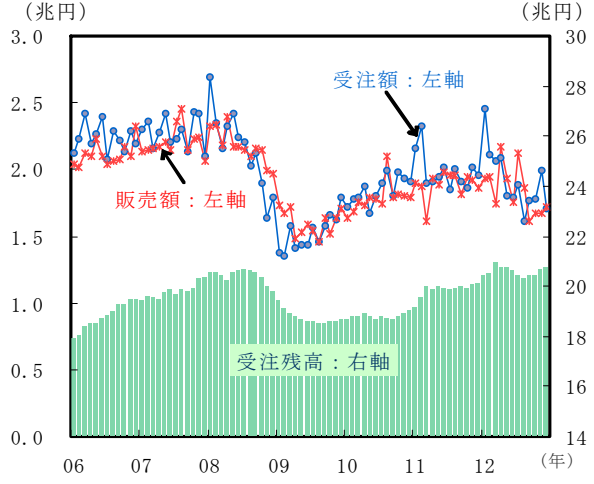
概況

民需（船舶・電力を除く、季節調整済み前月比）

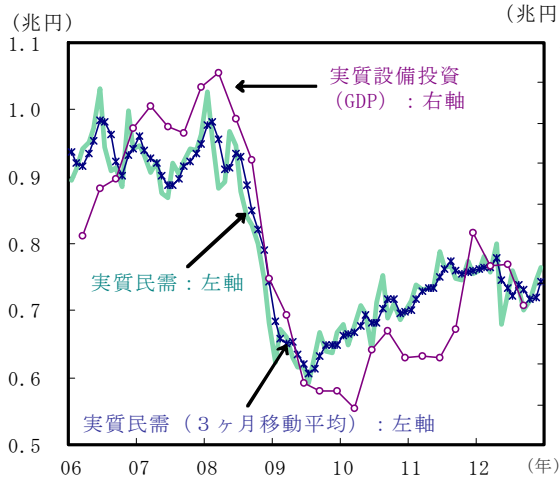


(出所) 内閣府統計より大和総研作成

船舶を除く合計（季節調整値）

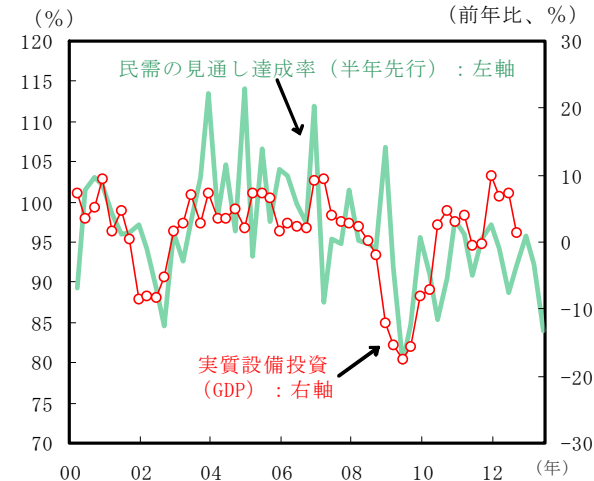


実質機械受注と実質設備投資（季節調整値）

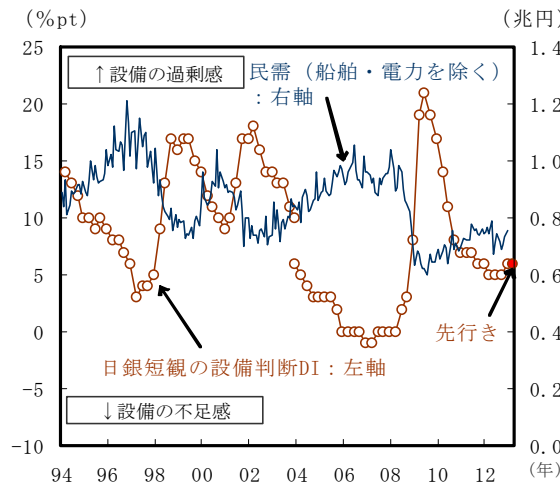


(注) 実質民需は、船舶・電力を除くベースで、企業物価指数（日本銀行）の国内資本財によって実質化。  
(出所) 内閣府、日本銀行統計より大和総研作成

民需（船舶・電力除く）の達成率と実質設備投資

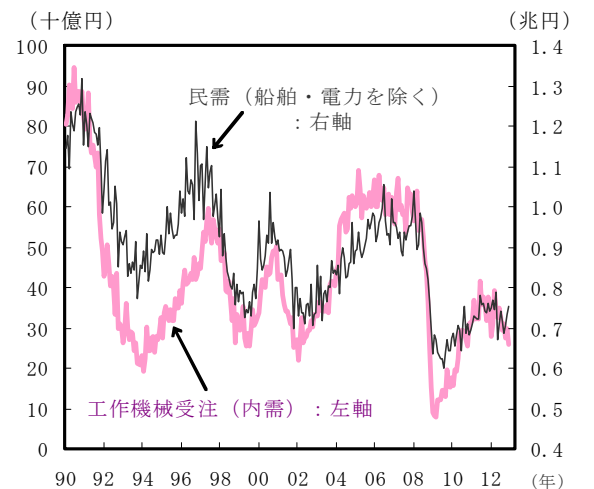


機械受注（季節調整値）と設備判断DI



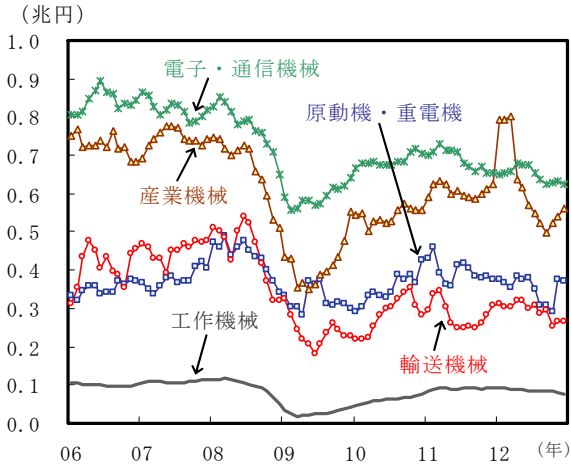
(注) 設備判断DIの段差は、統計の基準変更に伴うもの。  
(出所) 内閣府、日本銀行、日本工作機械工業会統計より大和総研作成

機械受注と工作機械受注



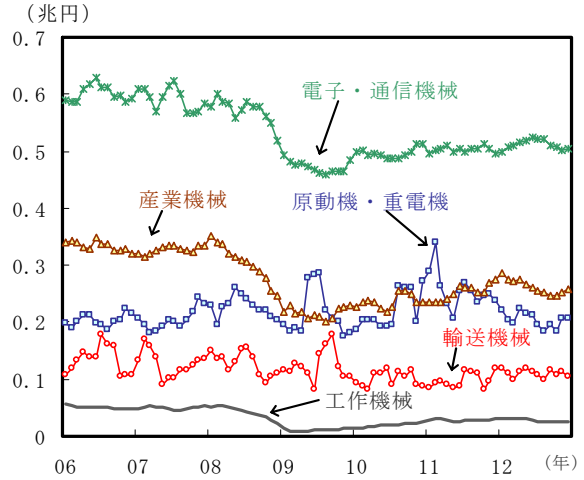
**機種別と製造業・非製造業の動向**

機種別・大分類の受注額（季節調整値）

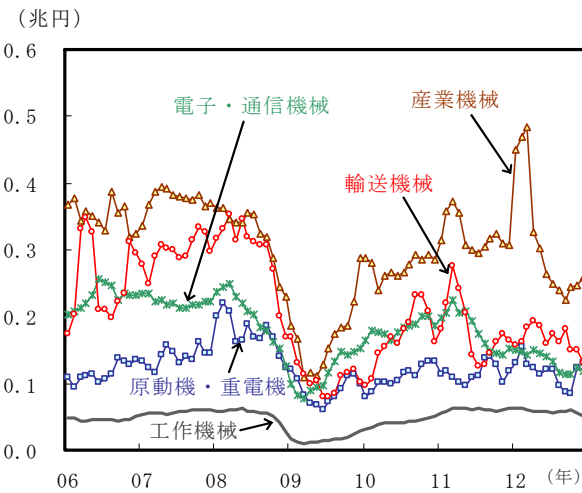


(注) 3ヶ月移動平均値で、季節調整は大和総研。  
(出所) 内閣府統計より大和総研作成

機種別・大分類の受注額【内需】（季節調整値）

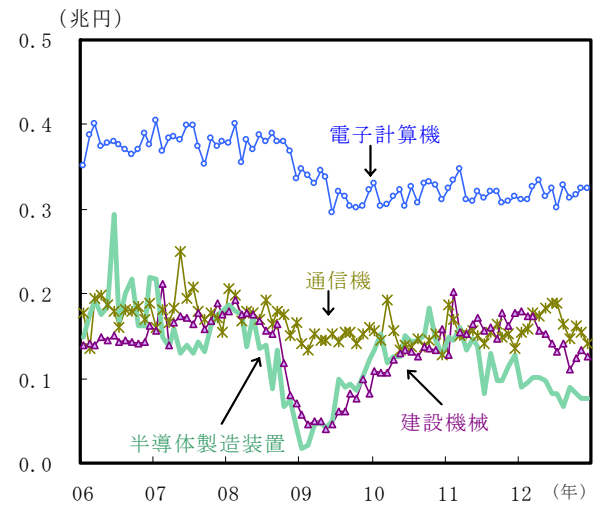


機種別・大分類の受注額【外需】（季節調整値）

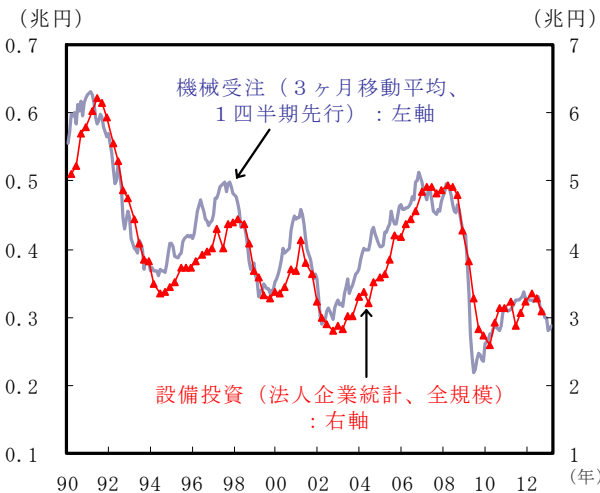


(注) 3ヶ月移動平均値で、季節調整は大和総研。  
(出所) 内閣府統計より大和総研作成

機種別・主な中分類の受注額（季節調整値）



機械受注と設備投資【製造業】（季節調整値）



(注) 設備投資の季節調整は大和総研。  
(出所) 内閣府、財務省統計より大和総研作成

機械受注と設備投資【非製造業】（季節調整値）

